

令和2年度病虫害発生予察情報 予報第12号（1月）

令和3年1月14日
発表：福島県病虫害防除所

野菜・花き

| 作物名 | 病虫害名 | 地方 | 発生時期 | 発生量 | 予報の根拠 | 防除上注意すべき事項 |
|-----|--------|----|------|-------|--|--|
| イチゴ | うどんこ病 | 全域 | — | やや少ない | 発生ほ場割合は、やや低かった（-）が、一部で発生程度の高いほ場が確認された。 | 多発すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底する。 |
| | 灰色かび病 | 全域 | — | 平年並 | 発生ほ場割合は、平年並であった（±）。 | ①過湿にならないよう換気を行う。 ②発病果や罹病した果梗、老化葉などはハウス内に放置しない。 |
| | アブラムシ類 | 全域 | — | 平年並 | 発生ほ場割合は、平年並であった（±）。 | 低密度時から薬剤防除を実施する。 |
| | ハダニ類 | 全域 | — | 平年並 | 発生ほ場割合は、平年並であった（±）が、一部で寄生程度の高いほ場が確認された。 | ①低密度時から薬剤防除を実施する。 ②抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。 ③カブリダニ等天敵資材を放飼している場合は、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。 |
| | コナジラミ類 | 全域 | — | 平年並 | 発生ほ場割合は、平年並であった（±）が、一部ですす病の発生しているほ場が確認された。 | 排泄物に発生するすす病は果面の汚れによる品質低下を招くので、発生密度に注意し、薬剤防除を実施する。 |
| | アザミウマ類 | 全域 | — | 平年並 | 発生ほ場割合は、平年並であった（±）。 | 発生が多くなると果実被害が生じるので、低密度時から防除を実施する。 |

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。